

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-098818

(43) Date of publication of application : 10.04.2001

(51)Int.Cl. E05B 65/12
B60R 7/06

(21)Application number : 11-281047

(71)Applicant : HONDA LOCK MFG CO LTD
HONDA MOTOR CO LTD

(22) Date of filing : 01.10.1999

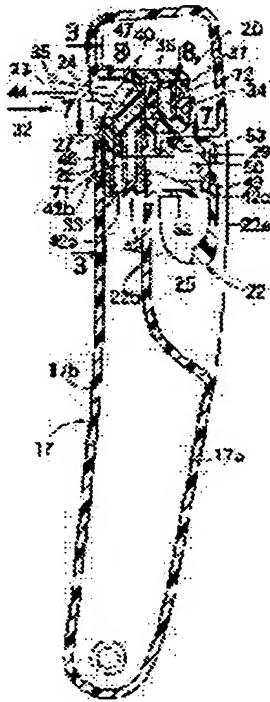
(72)Inventor : MIYAGAWA TAKUYA
KOGA SEIJI
SATO KATSUHIKO

(54) GLOVE BOX

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To surely prevent fingers from getting between an operating knob and a lid, in a glove box where an accommodating recess for accommodating the operating knob operable to open and close the lid is provided in the front of the lid, which can open and close the opening of a box main body.

SOLUTION: An operation knob 22 is integrally provided with a finger setting part 22a, whereon a finger can be set for operating a lid 17 to open and a pair of lateral plate parts 22b which is continuous to the opposite sides of the finger set part 22a at a right angle thereto. The two lateral plate parts 22b are formed so that they are partially left in an accommodating recess 25 in the state, where the finger setting part 22a is operated to open at a maximum.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 12.07.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 08.10.2003

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's

[decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C) 1998,2003 Japan Patent Office

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ボックス本体(16)の開口部を開閉可能なリッド(17)の前面に、該リッド(17)を開閉操作可能な操作ノブ(22)を収容せしめる収容凹部(25)が設けられるグローブボックスにおいて、前記操作ノブ(22)は、リッド(17)を開閉操作するために指を掛けることが可能である指掛け部(22a)と、該指掛け部(22a)の両側に直角に連なる一対の側板部(22b)とを一体に有し、前記両側板部(22b)が、前記指掛け部(22a)を最大限開閉操作した状態で両側板部(22b)の一部が収容凹部(25)内に残ったままとなるように形成されることを特徴とするグローブボックス。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、ボックス本体の開口部を開閉可能なリッドの前面に、該リッド開閉操作可能な操作ノブを収容せしめる収容凹部が設けられるグローブボックスに関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、かかるグローブボックスは、たとえば特開平5-321525号公報等により既に知られている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 ところが、上記従来のものでは、操作ノブが、開閉操作時に指を掛けることを可能として平板状に形成されており、操作ノブを最大限開閉操作したときには、操作ノブの両側と、収容凹部の開口縁両側との間には間隙が生じることになり、操作ノブを開閉操作している人の指が誤って前記間隙に入ったときには、操作ノブの閉じ側への作動時に操作ノブおよびリッド間に指が挟まってしまう可能性がある。

【0004】 本発明は、かかる事情に鑑みてなされたものであり、操作ノブおよびリッド間に指が挟まるのを確実に防止し得るようにしたグローブボックスを提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するために、本発明は、ボックス本体の開口部を開閉可能なリッドの前面に、該リッドを開閉操作可能な操作ノブを収容せしめる収容凹部が設けられるグローブボックスにおいて、前記操作ノブは、リッドを開閉操作するために指を掛けことが可能である指掛け部と、該指掛け部の両側に直角に連なる一対の側板部とを一体に有し、前記両側板部が、前記指掛け部を最大限開閉操作した状態で両側板部の一部が収容凹部内に残ったままとなるように形成されることを特徴とする。

【0006】 このような構成によれば、指掛け部に指をかけて操作ノブを開閉操作したときに、収容凹部の開口縁両側と指掛け部の両側との間に指を挿入可能な間隙が

生じることはなく、操作ノブおよびリッド間に誤って指を挟んでしまうことが確実に防止される。

【0007】

【発明の実施の形態】 以下、本発明の実施の形態を、添付の図面に示した本発明の一実施例に基づいて説明する。

【0008】 図1～図13は本発明の一実施例を示すものであり、図1はグローブボックスの正面図、図2は図1の2-2線に沿って示すリッドおよびリッドロック装置の拡大断面図、図3は図2の3-3線矢視方向から見たリッドロック装置の背面図、図4はリッドロック装置を正面側斜め下から見た分解斜視図、図5はリッドロック装置を背面側斜め上から見た斜視図、図6はリッドロック装置を背面側斜め下から見た分解斜視図、図7は図2の7-7線拡大断面図、図8は図2の8-8線拡大断面図、図9は図3の9-9線拡大断面図、図10は図9の10-10線断面図、図11は操作ノブを開き側に操作した状態での図2に対応した断面図、図12は図11の12-12線矢視方向から見たリッドロック装置の背面図、図13は作動レバーが非作動位置にある状態での図12に対応した図である。

【0009】 先ず図1において、乗用車両の車室内前部に配置されるインストルメントパネル15に、該インストルメントパネル15と一体であるボックス本体16と、ボックス本体16の開口部を開閉可能なリッド17とで構成されるグローブボックス18が、助手席19の前方に位置するようにして設けられる。

【0010】 リッド17およびボックス本体16間に、リッド17の閉鎖状態を維持するリッドロック装置20が設けられており、該リッドロック装置20は、リッド17の正面に臨んで配置されるシリンダ錠21を解錠状態にキー操作している状態での操作ノブ22の操作により、リッド17の閉鎖状態を解除するように作動する。

【0011】 図2において、リッド17は、その正面側の表板17aと、該表板17aとの間に間隔をあけた背面側の裏板17bとを有して合成樹脂により中空状に形成される。裏板17bの上部には、ボックス本体16側に設けられるストライカ23を挿脱可能に挿入させる挿入口24が設けられ、表板17aには、シリンダ錠21の一部を配置せしめるとともに、操作ノブ22を開閉操作可能に収容せしめる収容凹部25が設けられる。

【0012】 図3～図6を併せて参照して、リッドロック装置20は、合成樹脂により形成されてリッド17に取付けられるボディ26と、前記ストライカ23に係合することを可能として前記ボディ26に配設されるロッカバー27と、ボディ26を開閉操作可能として支承される前記操作ノブ22と、前記シリンダ錠21が備えるロータ28に一端が連結される作動レバー29とを備える。

【0013】ボディ26はリッド17に収納されるものであり、ボディ26の両側に設けられる貫通孔30、31にそれぞれ挿通されるボルト（図示せず）がリッド17の裏板17bに螺合されることにより、ボディ26がリッド17内に取付けられる。

【0014】ボディ26には、挿入口24へのストライカ23の挿入方向32とほぼ直交する方向に延びる摺動孔33が設けられており、この摺動孔33の一端開口部は、リッド17にボディ26が取付けられた状態で前記挿入孔24の内方に配置される。

【0015】またボディ26には、挿入口24から進入してくるストライカ23に対向する対向壁34と、そのストライカ23の両側に配置されて対向壁34に直角に連なる一対の側部拘束壁35、35とが立設され、前記摺動孔33の一端開口部に対向する上部拘束壁36が前記対向壁34および両側部拘束壁35、35に直角に連設される。

【0016】両側部拘束壁35、35および上部拘束壁36と、ボディ26とで、対向壁34で内端を閉じるようにして挿入口24に連なるストライカ収容孔44が形成され、該ストライカ収容孔44は、挿入口24とほぼ同一形状にして矩形状に形成される。また前記対向壁34には、進入してくるストライカ23に当接して該ストライカ23のボディ26への進入端を規制するゴム製のストッパー37が装着される。

【0017】図7において、摺動孔33は、ほぼ四角形の横断面形状を有するように形成されており、摺動孔33の内面形状に対応した横断面形状を有するロックバー27が摺動孔33に摺動可能に嵌合される。しかもロックバー27には、ストライカ23の挿入方向32とほぼ直交する平面内で外側方に突出する一対の突条38、38が軸方向全長にわたって一体に設けられており、摺動孔33の内面には、それらの突条38、38を摺動可能に嵌合せしめる一対のガイド溝39、39が設けられる。

【0018】また図8で示すように、摺動孔33の一端開口部に対向する上部拘束壁36の内面には、摺動孔33から突出したロックバー27の一端を収容する凹所40が設けられており、この凹所40の内面には、ストライカ23の挿入口24からの離脱方向とは逆方向から前記各突条38、38の一端部に当接する支持面41、41が形成される。すなわち上部拘束壁36は、ストライカ23の挿入口24からの離脱方向とは反対側からロックバー27の一端部に係合することが可能である。

【0019】ボディ26には、前記摺動孔33の他端を塞ぐ合成樹脂製のカバー42が装着される。このカバー42は、摺動孔33の他端を塞ぐ平板状のカバー主部42aと、ボディ26の正面側および背面側にそれぞれ2つずつ弾発的に接触するようにしてカバー主部42aに直角に連設される4つの係合部42b、42b…と、カ

バー主部42aの内面中央から突出する突部42cとを一体に備えるものであり、各係合部42b、42b…に係合孔43、43が設けられる。

【0020】一方、ボディ26には、各係合孔43、43…に係合する係合爪45、45…が突設されており、カバー42は、各係合部42b、42b…の係合孔43、43…に係合爪45、45…を係合するようにしてボディ26に弾発係合される。しかもボディ26のリッド17への取付け時に、各係合部42b、42b…のうちの少なくとも1つ、この実施例では、各係合部42b、42b…のうちリッド17の裏板17bに対向する2つの係合部42b、42bが、リッド17における裏板17bの内面でボディ26との弾発係合を維持する側に押さえられる。

【0021】カバー42におけるカバー主部42aおよびロックバー27の他端間にはコイル状のばね46が設けられ、このばね46が発揮するばね力により、ロックバー27が、その一端部を摺動孔33の一端から突出させる方向に付勢される。しかもばね46のカバー42側の端部には、カバー42が備える突部42cがばね46の位置決めのために嵌合される。

【0022】ロックバー27の一端部において、挿入口24に進入してくるストライカ23に対向する側には傾斜面47が形成されており、ばね46のばね力により摺動孔33の一端からロックバー27の一端部が突出している状態で、挿入口24からストライカ23が進入してると、該ストライカ23が前記傾斜面47に当接してロックバー27をばね46のばね力に抗して押し下げることになり、ストライカ23がロックバー27の一端部を乗り越えたときに、ロックバー27がばね46のばね力によってストライカ23に係合するよう突出作動することになる。すなわち、ロックバー27は、摺動孔33から一端部を突出せしめてストライカ23に係合する係合位置と、ストライカ23との係合を解除するようして摺動孔33内に収納される係合解除位置との間で、摺動孔33内を摺動することになる。

【0023】摺動孔33を相互間に挟む2箇所でボディ26の正面側には、リッド17の表板17aに設けられている収容凹部25内に突入するようして一対のプラケット48、49が突設されており、両プラケット48、49で支持される支軸50で、操作ノブ22が回動可能に支持される。

【0024】操作ノブ22は、リッド17を開放操作するため指を掛けることが可能である平板状の指掛け部22aと、該指掛け部22aの両側に直角に連なる一対の側板部22b、22bとを一体に有して合成樹脂により形成される。しかも両側板部22b、22bは、指掛け部22aに指を掛けて操作ノブ22を開放操作したときに、収容凹部25の開口縁両側と指掛け部22aの両側との間に指を挿入可能な間隙が生じることがないよう

にするためのものであり、指掛け部22aを最大限開放操作した状態で両側板部22b、22bの一部が収容凹部25内に残ったままとなるように形成される。

【0025】指掛け部22aの上部内面には複数の支持部51、51…が設けられており、これらの支持部51、51…が前記支軸50で回動可能に支持される。また指掛け部22aの内面には、両側板部22b、22bに直角に連なる規制板52が突設されており、該規制板52は、図2で示すように、操作ノブ22の閉じ状態でボディ26の下面に当接し、操作ノブ22の閉じ側への回動端を規制する。

【0026】さらに指掛け部22aの内面上部における幅方向中央部には、略し字状の係合板部53が、ボディ26側に突出するようにして一体に設けられ、この係合板部53は、操作ノブ22のボディ26への組付時には、ブラケット48および摺動孔33間に対応する位置に配置される。

【0027】ボディ26には、シリンダ錠21のロータ28を回動可能に嵌合せしめる円筒状のシリンダ部54が、ブラケット49および貫通孔31間に配置されるようにして一体に設けられており、シリンダ部54のうちリッド17の収容凹部25に臨む部分は合成樹脂から成るシリンダカバー55で覆われる。而して該シリンダカバー55は、ボディ26に設けられた複数の係合爪56…に、シリンダカバー55に設けられた係合孔57…を弾発係合するようにして、ボディ26に装着される。

【0028】ロータ28は、シリンダカバー55の前面に設けられた円形の開口部58に前端を臨ませてシリンダ部54に嵌合され、ロータ28の後端はシリンダ部54の後端よりも突出される。しかもロータ28の後端面において該ロータ28の軸線から偏心した位置には、連結軸59が設けられる。

【0029】作動レバー29は、シリンダ錠21におけるロータ28の後端面に一部を摺接させてボディ26の背面に対向する平板状のレバー主部29aと、該レバー主部29aの一端を連設させて略し字状に形成される連結腕部29bとを一体に有して、合成樹脂により形成される。しかも連結腕部29bは、ボディ26の背面側に配置されるレバー主部29aからボディ26の正面側に回り込むように配置されており、ボディ26には、連結腕部29bを貫通せしめるようしてボディ26の正面および背面間を結ぶ連絡孔60が設けられる。

【0030】図9および図10を併せて参照して、作動レバー29のレバー主部29aに対向する部分でボディ26の背面には、該ボディ26に基端が直角に連なる軸部61aの先端に腕部61bが直角に連設されて成るL字状のフック61が一体に設けられる。一方、作動レバー29のレバー主部29aには、フック61の軸部61aをガイドするガイド孔62と、フック61の腕部61bを挿通させ得る挿通孔63とがL字状に連なって設け

られる。

【0031】前記レバー主部29aには、前記ガイド孔62と平行に延びる長孔64が設けられており、長孔64およびガイド孔62間でレバー主部29aには、該レバー主部29aの他の部分よりも薄肉とした弾性変形部65が設けられる。

【0032】フック61の腕部61bに対向する側で前記弾性変形部65には、ガイド孔62と平行に延びるガイド溝66と、該ガイド溝66の両端を連ならせた一対の凹部67、68とが形成され、ガイド溝66の深さは、両凹部67、68の深さよりも浅く設定される。

【0033】フック61の腕部61bには、前記ガイド溝66および両凹部67、68に嵌合し得る突起69が突設され、該突起69には、レバー主部29aの一部がロータ28の後端面に摺接していることにより、前記弾性変形部65が押付けられる。

【0034】作動レバー29の一端部であるレバー主部29aには連結孔70が設けられており、シリンダ錠21におけるロータ28が備える連結軸59が該連結孔70に挿通、係合される。これにより、シリンダ錠21のキー操作によるロータ28の回動に応じて作動レバー29が直線的に作動することになる。すなわちシリンダ錠21が鎖錠状態にあるときに突起69を凹部67に嵌合せしめる作動位置（図3で示す位置）と、シリンダ錠21が解錠状態にあるときに突起69を凹部68に嵌合せしめる非作動位置との間で、作動レバー29が直線的に作動する。而して作動位置および非作動位置間での直線的な移動時に作動レバー29のガイド溝66内を前記突起69が摺動することになり、フック61の軸部61aをガイドするガイド孔62も、作動位置および非作動位置間での作動レバー29の直線的な移動を許容するよう形成される。

【0035】ボディ26の正面側で前記摺動孔33に対応する部分には、該摺動孔33の内面を外部に開放するスリット71が、摺動孔33の軸線方向に延びて設けられており、ロックバー27の他端に直角に連設される係合突部72が、前記スリット71から外部に突出される。一方、作動レバー29が備える連結腕部29bは、前記係合突部72の上方に配置されており、該連結腕部29bの中間部下面には、前記係合突部72に上方から嵌合、当接する押圧凹部73が設けられる。この押圧凹部73は、作動レバー29の作動位置および非作動位置間での移動にかかわらず前記係合突部72に嵌合可能とすべく、作動レバー29の移動方向に沿って比較的長く形成される。

【0036】また連結腕部29bの他端には、操作ノブ22に設けられている係合板部53に下方から当接可能な受け部74が設けられており、この受け部74は、作動レバー29が作動位置にある状態では係合板部53に下方から当接可能であるが、作動レバー29が非作動位

置にある状態では係合板部53に下方から当接する位置から退避することになる。したがって作動レバー29が作動位置にある状態で操作ノブ22を開き側に操作したときには、図11および図12で示すように、係合板部53が受け部74に上方から当接して押圧することにより、作動レバー29が突起69の凹部67への嵌合部を支点として下方に回動し、ロックバー27の係合突部72に嵌合している押圧凹部73からロックバー27に、該ロックバー27が係合解除位置側に向けて作動せしめる作動力が作用することになる。これにより、ロックバー27のストライカ23との係合が解除され、リッド17を開放操作することができる。

【0037】一方、作動レバー29が非作動位置にある状態で操作ノブ22を開き側に操作したときには、図13で示すように、係合板部53が受け部74に上方から当接することではなく、操作ノブ22の開き側の操作が空振りとなり、ロックバー27に作動レバー29から係合解除位置側に向けての作動力が作用することない。すなわち、ロックバー27のストライカ23との係合は解除されず、リッド17を開放操作することはできない。

【0038】ところで、作動レバー29は、その作動位置で凹部67への突起69の嵌合部を支点として回動するのであるが、ロータ28の連結軸59を挿通、係合せしめている連結孔70は、前記支点まわりの作動レバー29の回動を許容するように、たとえば前記支点を中心とする円弧状に形成されている。また連結孔70は、この実施例では、作動レバー29におけるレバー主部29aの側面に開放しているのであるが、閉じた形状に連結孔70が形成されていてもよい。

【0039】次にこの実施例の作用について説明すると、ロックバー27をストライカ23に係合する方向のばね力を発揮するばね46を、ロックバー27との間に介在せしめてボディ26に装着されるカバー42が合成樹脂から成るものであり、該カバー42が備える複数の係合部42b、42b…がボディ26に弾発係合されるので、カバー42のボディ26への装着が容易となり、リッドロック装置20の組立作業性を向上することができる。

【0040】しかもリッドロック装置20のリッド17への組付状態では、カバー42が備える複数の係合部42b、42b…の少なくとも1つ、この実施例では2つが、ボディ26との弾発係合を維持する側にリッド17の内面で押さえられる。したがってリッド17の内面で押さえられた部分では係合部42bのボディ26への弾発係合状態が不所望に解除されることはなく、カバー42のボディ26への装着状態を確実に維持することができる。

【0041】またストライカ23の挿入方向32とほぼ直交する平面内に配置されてロックバー27に一体に設けられる一对の突条38、38が、摺動孔33の内面に

設けられた一对のガイド溝39、39に摺動可能に嵌合され、摺動孔33の一端開口部に対向してボディ26に設けられる上部拘束壁36に、ストライカ23の挿入口24からの離脱方向とは反対側から両突条38、38の一端部に当接し得る支持面41、41が形成されている。したがって係合位置にあるロックバー27の一端部にストライカ23が係合したリッド17の閉鎖状態でリッド17に開放方向の外力が加わったときには、ロックバー27の一端部は上部拘束壁36の支持面41、41に当接して支持され、またロックバー27の摺動孔33に対応する部分では一对の突条38、38のガイド溝39、39への嵌合によって支持されており、ストライカ23のロックバー27への係合部の両側で該ロックバー27がボディ26で支持されることになる。これにより、ロックバー27を充分な支持強度で支持することが可能となる。

【0042】しかもボディ26に立設される一对の側部拘束壁35、35が上部拘束壁36の両側に直角に連設され、ボディ26に立設される対向壁34も上部拘束壁36に直角に連設されているので、リッド17に開放方向の外力が加わったときにロックバー27を介して上部拘束壁36に作用する荷重に耐えるように上部拘束壁36を充分な強度で支持することができる。

【0043】また挿入口24から進入したストライカ23のボディ26に対する上下および左右への変位は、両側部拘束壁35、35と、上部拘束壁36と、ボディ26とで制限される。しかも両側部拘束壁35、35の強度は上部拘束壁36で補強され、上部拘束壁36の強度は両側部拘束壁35、35で補強されることになり、両側部拘束壁35、35および上部拘束壁36が変形することを回避しつつ、ストライカ23のボディ26に対する上下および左右への変位を確実に制限することが可能である。したがって強い衝撃の作用によりリッド17が不所望に開放してしまうことを確実に防止することができる。

【0044】しかも両側部拘束壁35、35および上部拘束壁36と、ボディ26とで形成されるストライカ収容孔44は、挿入口24とほぼ同一形状にして挿入口24に連なるものであるので、リッド17の開放時に上面側に配置される挿入口24にストライカ収容孔44がほぼ同一形状で連なることになり、挿入口24からリッド17内が見えることがなく、両側部拘束壁35、35および上部拘束壁36とリッド17との一体感が得られるようにして外観を向上することができる。

【0045】さらにボディ26には、ボディ26に基端が直角に連なる軸部61aの先端に腕部61bが直角に連設されて成るL字状のフック61が設けられており、シリンドラ錠21のロータ28が偏心して備える連結軸59を挿通、係合せしめる連結孔70を一端部に備える作動レバー29には、フック61の軸部61aをガイドす

るガイド孔62と、フック61の腕部61bを挿通させ得る挿通孔63とがし字状に連なって設けられている。したがって、フック61の腕部61bを作動レバー29の挿通孔63に挿通し、フック61の軸部61aがガイド孔62の中間部に位置するようにボディ26に対する作動レバー29の相対位置を定めることにより、作動レバー29をフック61に係合、支持することができる。

【0046】しかも作動レバー29の一端部に設けられている連通孔70に、ロータ28の連結軸59が、挿通、係合されるので、リッドロック装置20のうちシリンドラ錠21のロータ28を除く部分を組み立ててリッド17に取付けておき、最終的にロータ28をボディ26のシリンドラ部54に組込むようにして、作動レバー29および連結軸59を連結することが可能であり、組立作業性を向上することが可能となる。

【0047】また合成樹脂から成る作動レバー29のレバー主部29aには、該作動レバー29の作動位置および非作動位置にそれぞれ対応した一対の凹部67、68と、それらの凹部67、68よりも浅くして両凹部67、68間に結ぶガイド溝66とが形成された弾性変形部65が設けられ、フック61の腕部61bをなわちボディ26側に設けられて両凹部67、68間にわたるガイド溝66内での摺動を可能とした突起69を前記弾性変形部65に押付けるようにして、作動レバー29が配置されている。

【0048】したがって、ロータ28の回動に応じて作動レバー29が作動位置および非作動位置間で移動する際に突起69がガイド溝66内を摺動することになるが、ガイド溝66は凹部67、68よりも浅く形成されており、作動位置および非作動位置間での作動レバー29の作動途中では、突起69が弾性変形部65を撓ませつつガイド溝66内を摺動するので、作動レバー29および突起69の摩擦力が比較的大きくなる。このため、シリンドラ錠21を、非作動位置に対応した鎖錠位置ならびに作動位置に対応した解錠位置間でキー操作する際の途中の操作力が比較的大きくなるが、前記鎖錠位置および解錠位置に達したときには、突起69が凹部67、68にそれぞれ嵌合することによりキーに作用する反力が急激に低減することになり、シリンドラ錠21のキー操作に節度感が得られることになる。

【0049】しかも節度感を得るにあたって、一対の凹部67、68およびガイド溝66が形成される弾性変形部65を作動レバー29に設けるとともに、ボディ26側に突起69を設けるだけであり、部品点数の増加を回避した簡単な構造でキー操作に節度感を得ることが可能となる。

【0050】さらにリッド17の表板17aに設けられた収容凹部25に開閉操作可能に収容された操作ノブ22は、平板状の指掛け部22aと、該指掛け部22aの両側に直角に連なる一対の側板部22b、22bとを一

体に有するものであり、両側板部22b、22bは、指掛け部22aを最大限開放操作した状態で両側板部22b、22bの一部が収容凹部25内に残ったままとなるように形成されている。したがって指掛け部22aに指を掛けた操作ノブ22を開放操作したときに、収容凹部25の開口縁両側と指掛け部22aの両側との間に指を挿入可能な間隙が生じることはなく、表板17aおよび操作ノブ22間に誤って指を挟んでしまうことが確実に防止される。

【0051】以上、本発明の実施例を詳述したが、本発明は上記実施例に限定されるものではなく、特許請求の範囲に記載された本発明を逸脱することなく種々の設計変更を行なうことが可能である。

【0052】

【発明の効果】以上のように本発明によれば、操作ノブを開放操作したときに、収容凹部の開口縁両側と操作ノブの両側との間に指を挿入可能な間隙が生じることはなく、操作ノブおよびリッド間に誤って指を挟んでしまうことが確実に防止される。

【図面の簡単な説明】

【図1】グローブボックスの正面図である。

【図2】図1の2-2線に沿って示すリッドおよびリッドロック装置の拡大断面図である。

【図3】図2の3-3線矢視方向から見たリッドロック装置の背面図である。

【図4】リッドロック装置を正面側斜め下から見た分解斜視図である。

【図5】リッドロック装置を背面側斜め上から見た斜視図である。

【図6】リッドロック装置を背面側斜め下から見た分解斜視図である。

【図7】図2の7-7線拡大断面図である。

【図8】図2の8-8線拡大断面図である。

【図9】図3の9-9線拡大断面図である。

【図10】図9の10-10線断面図である。

【図11】操作ノブを開き側に操作した状態での図2に対応した断面図である。

【図12】図11の12-12線矢視方向から見たリッドロック装置の背面図である。

【図13】作動レバーが非作動位置にある状態での図12に対応した図である。

【符号の説明】

16・・・ボックス本体

17・・・リッド

18・・・グローブボックス

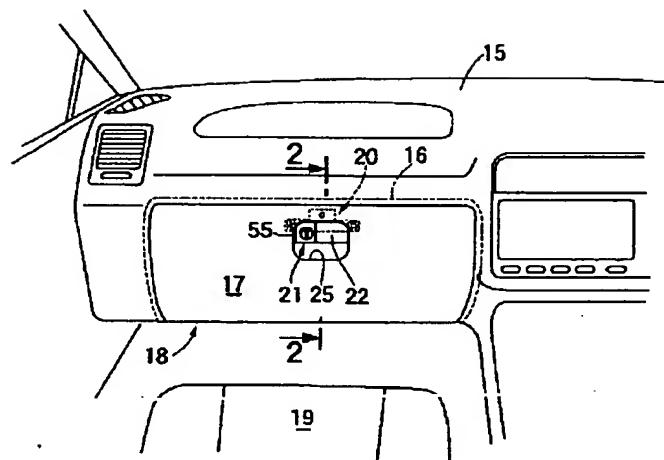
22・・・操作ノブ

22a・・・指掛け部

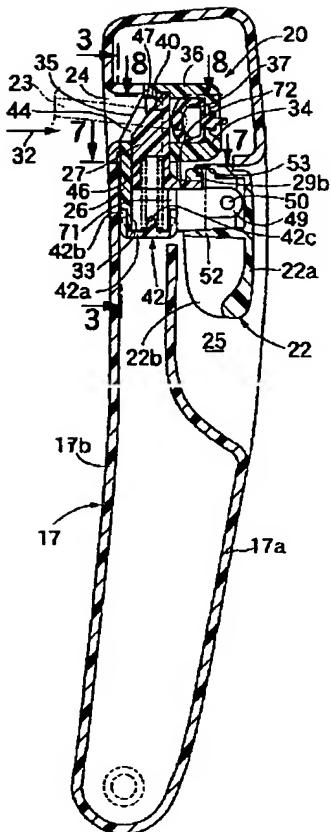
22b・・・側板部

25・・・収容凹部

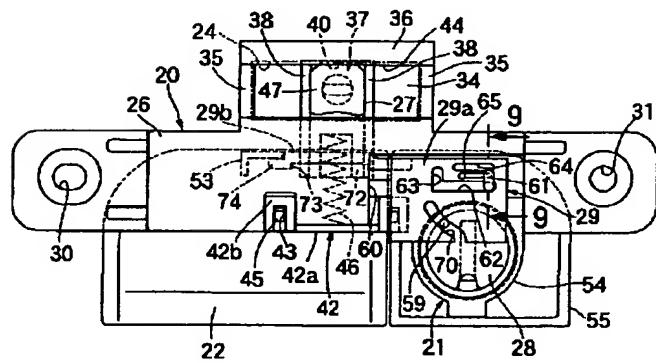
〔図1〕



[図2]

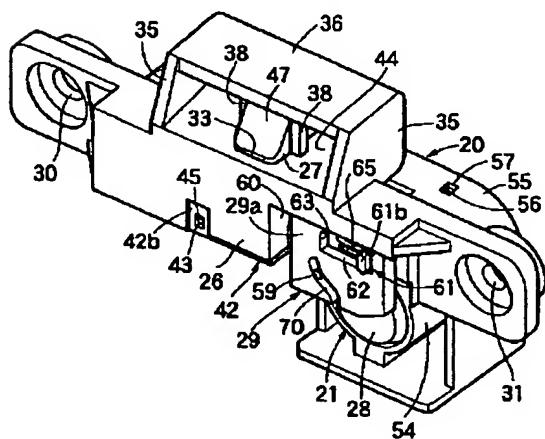


〔図3〕

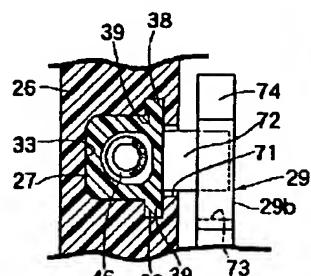


[図8]

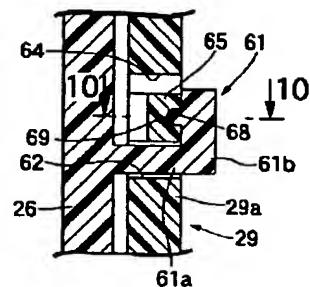
[图5]



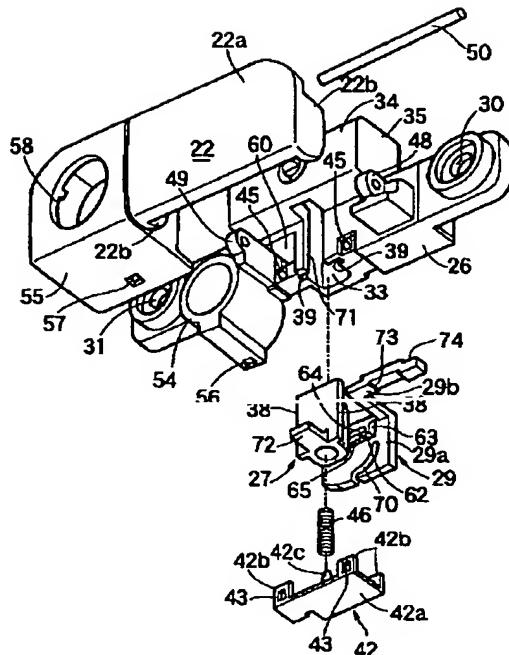
〔図7〕



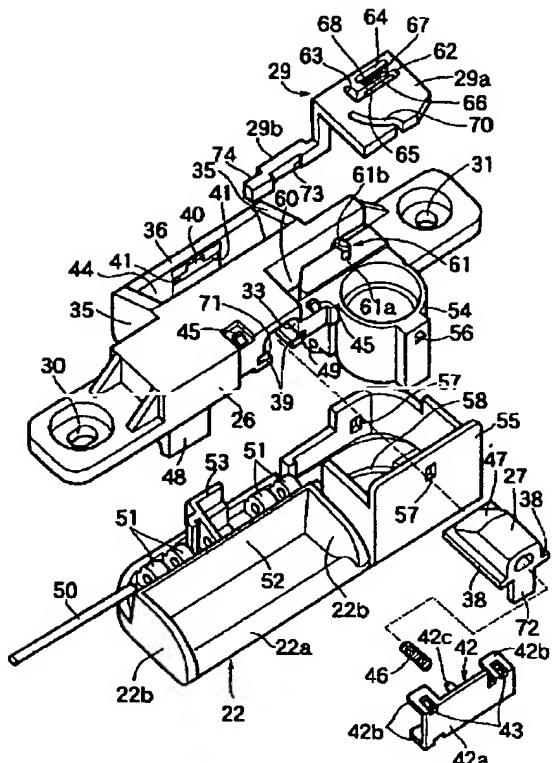
[図9]



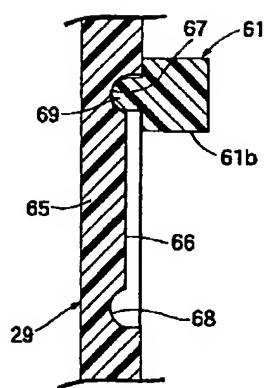
[図4]



【図6】



〔図10〕



[図12]

